

# 小島地区ふれあいセンターだより



令和5年1月 第391号 運営委員会発行

愛宕3丁目10-2 電話826-7703



## 1月の行事予定

※毎週月曜日及び1月1日(日)～3日(火)は休所日です。

開催日	行事名
4日(水)	すこやか運動教室(生涯元気事業) 午前10時～12時
10日(火)	小島地区ふれあいセンター運営委員会 午前10時～11時
12日(木)	小島愛宕地区老人連合会定例会議 午前10時～11時
13日(金)	愛宕3丁目自治会給食会
18日(水)	すこやか運動教室(生涯元気事業) 午前10時～12時
21日(土)	小島地区民生委員児童委員協議会定例会 午前10時30分～
25日(水)	小島地区連合自治会連絡会議

## 新年のごあいさつ

小島地区ふれあいセンター運営委員会

会長 金子 三智郎

皆様、新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、大変お世話になりました。

ふれあいセンター運営委員会の会長を務めております金子でございます。

今年も、小島地区ふれあいセンターの運営委員会、学習グループ、センターのスタッフ一同、共々宜しく願ひいたします。

昨年は、コロナの渦が活動にもろに影響を与え、様々な活動に大きな影を与え、不本意な活動に止まった事は残念と言わざるを得ません。

今年、「癸卯」(みずのとう)の年です。

「諦めず無理はせず、停滞した世の中に希望が芽吹く年。」「寒気が緩み、萌芽を促す年となる。」

世の中に、そろそろ希望が芽吹く春がやって来そうです、でも無理をしすぎない事が、道を開く鍵になりそうです。

是非とも新しい年が、寒気を退け、明るい年となることを祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。



## 「秋の歴史探訪」講座について

十二月三日（土）に、小島地区ふれあいセンターの主催講座「秋の歴史探訪」を開催しました。

講師には、テレビ等でお馴染みの山口広助さんをお迎えしました。

当日は、雲ひとつない好天に恵まれ、参加者（三十一名）及びスタッフは、丸山公園に集合して、青龍山大徳寺跡や長崎（小島）養生所跡資料館の見学など、小島郷界隈を散策しました。

参加者の皆さんは、講師の説明を興味深く聞きながら、和気藹々（わきあいあい）と、午後のひとときを楽しく過ごされました。



## ☆こしまおはなしランド&クリスマス会☆

十二月四日（日）に、小島中学校区青少年育成協議会と小島地区ふれあいセンターの共催で、恒例の「こしまおはなしランド&クリスマス会」が開催されました。

小島小学校や愛宕小学校の児童などが参加しました。

「長崎女子短期大学」の学生さんによるコーナー、地域で読み聞かせ活動をされている方々による指あそびや紙しばい、小島小学校のお母さん達で構成する「よむぞうクラブ」による読み聞かせやクイズなどがあり、最後にサンタクロースが登場して、プレゼントが配られ、子供達は楽しい時間を過ごしました。





## 南山手界限(大浦天主堂①)

○大浦天主堂(国宝)。拜観料が必要でず。

・元治2年(1865)2月19日に献堂、正式名を「日本26聖殉教者天主堂」といい、26聖人に捧げられた教会です。日本で最古の天主堂です。建物は26聖人が処刑された西坂の丘の方向を向いて建てられています。処刑された日、慶長元年12月19日(1597・2・5)○信徒発見のレリーフ(隠れキリシタンとプチジャン神父のレリーフ) 天主堂敷地内に入り、階段の中腹の左側、大きな石のレリーフが立っています。

※1865年3月17日(元治2年2月20日)金曜日、浦上地区の男女10数人が、門の前に立ちました。プチジャン神父が中に招き入ると、杉本ユリが「私たちの胸、あなたの胸と同じ」と告げました。「マリヤ像はどこ」神父がマリヤ像の前に招くと、一斉にマリヤ様だと駆け寄り、祈りを捧げ始めました。この事は、当時「信徒発見」として世界中を駆け巡り、当時のローマ教皇も「東洋の奇跡」と叫んだといわれています。

※天主堂の建築工事を見学に来た浦上のキリシタンは「フランス寺には、サンタ・マリヤのお像がある」との話聞き、命がけで「三つの伝承」を確かめようとフランス寺に向かい、プチジャン神父にそれを確認したあと、信仰を表明しました。

○「三つの伝承」(教会も無くパードレ(神父)もない状況での信仰の拠り所)

・七代経ったら、パードレがローマから船でやってくる。

・そのパードレは独身である。

・サンタ・マリヤの御像を持ってやってくる。

この事は、子から孫へと途切れることなく、口頭で伝えられて来ました。

○マリヤ像 大浦天主堂には、二体のマリヤ像があります。・当時の浦上の信者が目にした、イエスを抱くマリヤ像。祭壇の右手に祀られています。もう一体は、プチジャン神父が信徒発見を祈念して祀った教会入口のマリヤ像(慶長元年3月17日)、「日本の聖母像」といわれています。

次は、南山手界限(大浦天主堂②)

## 長崎雑話 (1)

竹方其

じゃがたらお春 (一)

「赤い花なら 曼珠沙華」  
まんじゅしゃげ

阿蘭陀屋敷に 雨が降る

濡れて泣いてる じゃがたらお春

未練な出船の ああ鐘が鳴る

ララ鐘が鳴る」

曼珠沙華(彼岸花)



梅木三郎作詞、佐々木俊一作曲の流行歌「長崎物語」の節であるが、江戸の初め、混血ゆえに日本から追放された15歳で、ジャカルタに渡った少女の悲しい思いを歌っています。

長崎において「じゃがたらお春」と聞けば、まず知らない人はいない。しかし、江戸時代に混血児ということ追放になったという事ぐらいしか知らないのが一般的である。

実像に迫って行こう。

十六世紀の南蛮貿易の時代、ポルトガル・スペイン船が来航し、堺、博多、平戸、長崎などは、自由貿易で盛況であった。南蛮人の宿泊は、おのずから町中に散宿し、日本人の女性との交わりによって、多くの混血児が生れた。

この南蛮貿易は、商売上の商品の取引ばかりでなく、キリスト教の布教も大きな目的であったがため、多くの日本人が信者となっていた。

しかしながら、豊臣秀吉時代より禁教が始まり、江戸期になつて、幕府は、本格的に禁教政策を進めていった。



〈新着図書のご案内〉

	書 籍 名	著 者 名	出 版 社
一 般 図 書	閉塞感がニャくなる魔法の言葉 88	矢作 直樹	ワニブックス
	愛すること	瀬戸内 寂聴	河出書房新社
	腎臓が寿命を決める	黒尾 誠	幻冬舎
	愚者の階梯	松井 今朝子	集英社
	介護者 D	河崎 秋子	朝日新聞出版
	脱白髪染めのはじめかた	伊熊 奈美	グラフィック社
	我が息子、慎太郎と裕次郎	石原 光子	青志社
	70歳になってもボケない頭のつくり方	茂木 健一郎	きずな出版
	暁天の星	葉室 麟	PHP 研究所
	さかのぼり武士の日本史	跡部 蛮	ビジネス社
	奇跡を蒔くひと	五十嵐 貴久	光文社
	風花帖	葉室 麟	朝日新聞出版
	春風同心十手日記 1	佐々木 裕一	小学館
	汝(きみ)よさらば 1	門田 泰明	祥伝社
	汝(きみ)よさらば 2	門田 泰明	祥伝社
	汝(きみ)よさらば 3	門田 泰明	祥伝社
	汝(きみ)よさらば 4	門田 泰明	祥伝社
	裏切りの日日	逢坂 剛	集英社
	阪急電鉄殺人事件	西村 京太郎	祥伝社
	気象予報士という生き方	森田 正光	イースト・プレス
児 童 図 書	アーマのうそ	キャロル・ライリー・プリンク	文溪堂
	ほんとだもん!	いもと ようこ	金の星社
	イツァーク	トレーシー・ニューマン	音楽之友社
	おこりじぞう	山口 勇子	金の星社
	きらめきハートのドレス	あんびる やすこ	岩崎書店
	もやもやラボ	シオリーヌ	小学館クリエイティブ
	あずきがゆばあさんととら	ペク ヒナ	偕成社
	屋根のうえのバトンリレー	横塚 眞己人	ほるぷ出版
	にだんべっど	斉藤 倫	あかね書房
スノーマン	マイケル・モーパーゴ	評論社	